

第 2 部 基本構想

1 基本理念

自然と歴史を活かし、新しい時代の日本や世界に誇れるまちを築くため、「地域力」、「安心力」、「活性力」を向上させ、基本理念の実現に向けて、ゆるやかに成長するまちづくりをめざします。

地域力

豊かな自然や歴史・文化の恵みを活かし、世界に誇れるまちづくりをめざします

美しい海にのぞみ、緑豊かな山に抱かれた自然環境や古代丹後王国をはじめとする固有の歴史・文化は、京丹後市の大きな特色であり、共有の財産です。

この「恵み」を京丹後市の宝として次世代に受け継ぐとともに、自然のやすらぎに癒される暮らしの確保や、自然や歴史・文化を大切にすることによって地域の活力が持続的に発展する取組みなど、新しい時代の日本や世界に誇れるまちづくりをめざします。

このため、丹後の豊かな自然と資源を背景に、市民、事業者、行政がその役割を適切に分担することにより、地域が持続的に発展する「地域力」を高めます。

安心力

ともに支え合い、安心して暮らせる健康・福祉のまちづくりをめざします

少子高齢化の進行にともなって、福祉や健康・医療に対する市民ニーズは高くなっている中で、保健・医療・福祉サービスの充実・強化と、地域福祉への市民の主体的な参加などによって、子どもが健全に育ち、女性が安心して働くことができ、高齢者や障害者が安心と尊厳をもって社会に参加できるまちづくりをめざします。

また、元気のある長寿社会を支える基盤は健康にあり、保健・医療体制の充実を図るとともに、京丹後市の特色を生かしながら、市民の主体的な健康づくりの推進をめざします。

このため、保健・医療・福祉の連携と、一人ひとりが互いに支え合う地域福祉の推進を通じて、誰もが健やかで安心して暮らせる「安心力」を高めます。

活性化

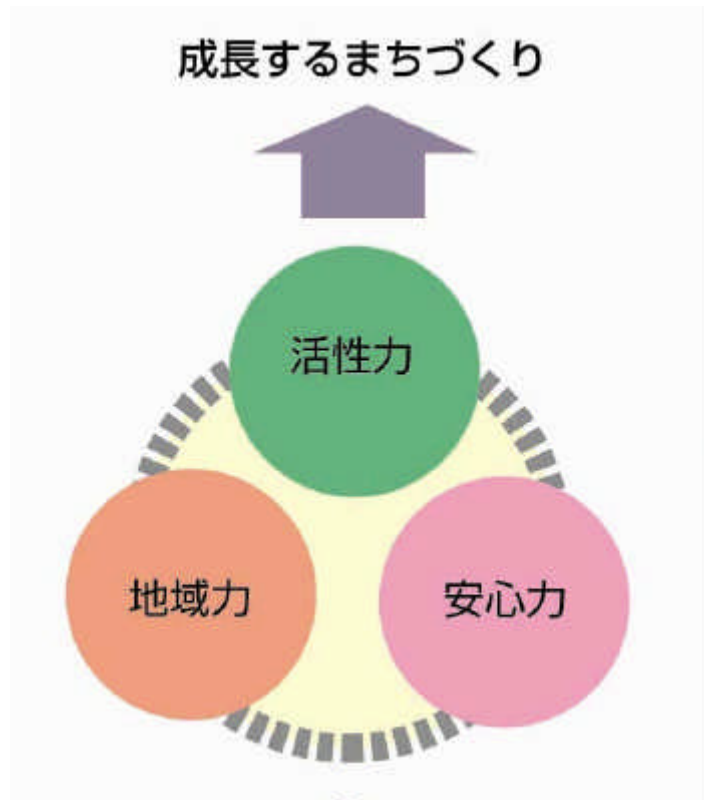
ひとが育ち、夢がふくらみ、未来に飛躍するまちづくりをめざします

市民ニーズにおいて雇用の確保とにぎわいの創出が大きな課題となっていることから、既存の産業の振興はもとより、産学官の連携による新たな産業の育成・誘致を進めていきます。また、京丹後市の財産である自然の恵みの活用や、交流人口の増大による各種産業の活性化をめざします。

このような活性化の基盤として、交通・情報などの交流基盤の強化を進め、京阪神や環日本海、首都圏との交流連携強化をめざします。

また、このような活性化を担う人材を育成するため、市民自らが産業・文化・生涯学習など様々な面で創造的な活動を行える環境づくりを進めるとともに、創造性・自主性・個性等を重視した教育環境の充実など、未来の京丹後市を担う豊かな人材の育成をめざします。

このため、雇用の確保とにぎわいの創出により、地域・経済の活性化を生み出し、成長していく「活性化」を高めます。



2 10年後の将来像

京丹後市の将来像については、10年間における長期的な展望のもとに、融和 挑戦 創造の3段階で成長するまちづくりをめざすものとし、段階ごとの都市像を合わせて示します。

また、本計画期間内には、私たちの強い願いであった京都縦貫自動車道並びに鳥取豊岡宮津自動車道の宮津～京丹後市間の開通が予定されています。これらの高速自動車道の開通により、本市の観光をはじめとした各種産業への影響は大変大きなものがあり、これを見据えた的確な産業対策やまちづくりを行っていかねばなりません。

第1段階～ひと、みず、みどりを結ぶ交流のまち

おおむね最初の3年間については、旧6町のまちづくりの取組みを継承し発展させながら、地域の融和を図り、京丹後市としての基盤づくりの期間と位置づけます。

第2段階～若い力と希望がふくらむ交流のまち

おおむね次の4年間については、京丹後市だからこそできる新たなまちづくりへ挑戦し、協働の力で新たな芽を育てる期間と位置づけます。

第3段階～新しい歴史をひらく交流文化のまち

さらに次の3年間については、新たな芽を大きく成長させ、日本や世界に誇れるオンリーワンの京丹後らしさを創造する期間と位置づけます。

目標年次である平成26年(2014年)の定住人口については7万人、交流人口については500万人をめざします。

このような段階的に成長するまちづくりによって、次のような将来像をめざします。

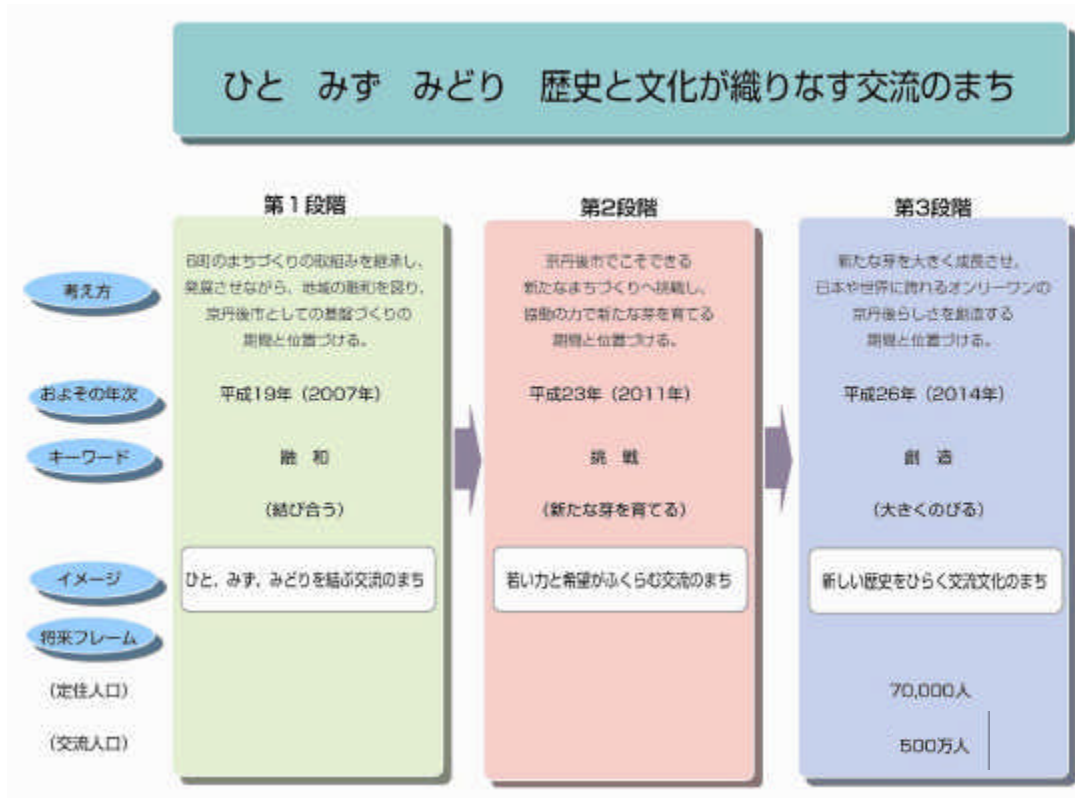
ひと みず みどりを 歴史と文化が織りなす交流のまち

オンリーワン ただひとつの。ここだけの。

計画の目標年次と3つの段階

平成 (西暦20)	17 05	18 06	19 07	20 08	21 09	22 10	23 11	24 12	25 13	26 14	年度 年度)	
基本構想												
基本計画												
	前期					後期						
第1段階	→											
第2段階				→								
第3段階							→					

段階的に成長する都市像



3 6つの基本方針

(1) ひと(人材・来訪者)・もの(産業・地域資源)・こと(イベント・しくみ)

が行きかう交流経済都市

地域産業の活性化・働く場の創出 <産業・雇用>

これまで京丹後市は、農林業・漁業の第1次産業を基盤にして、丹後ちりめん、機械金属産業の発展を見てきました。また、日本海に面した立地を活かした観光という新しい産業が発展してきました。

このような基盤を活かし、これまでの各町の産業振興の取組みを総合した産業基盤整備の効率的な推進をはじめ、人・技術・組織の連携、商品開発、流通・販売体制の統合化と支援体制の強化など、効率性の高い産業振興を進めます。

農林・漁業については地産地消のための仕組みづくりとともに、国営農地等の積極的な活用も含めた京丹後ブランドの農産物の開発、体験型産業としての受け皿づくりなど、魅力ある農林・漁業振興の担い手となる人材と後継者の確保に努めます。

また、観光レクリエーションにおいては合併のメリットを十分に活かし、観光都市・京丹後市の魅力を高めるために、各地域の歴史・文化・自然のネットワーク化を図るとともに、近隣市町との連携による広域的な丹後観光地整備を推進します。

さらに、経済のグローバル化と情報社会に対応しながら起業家支援や地場企業への支援体制の強化、新しい産業の育成による新規雇用の創出に努めるとともに、U I J ターンを推進し定住化の促進を図ります。また、国際的な視野にたった活発な交流のための環境整備を進め、ひと・もの・ことが豊かに行きかい、力強く、にぎわいのある交流経済都市をめざします。

(2) 暮らしの中でいのちが輝く環境循環都市

自然環境の保全と共生・生命の循環 <自然・環境>

～海・山・川・里、美しい自然環境・多彩な生態系を有する京丹後～

私たちは、この環境を将来にわたって守り育てなければなりません。

しかし、私たちの社会は大量の化石エネルギーを消費しています。その結果、地球温暖化などの深刻な地球環境の荒廃に直面しており、海洋や河川の汚染が進む中、環境ホルモンなどによる様々な生活環境への不安が大きくなってきました。

このような現実から、美しいふるさとの自然環境を守り次代に継承するためには、市民一人ひとりが地球市民としての自覚を持ち行動することが必要です。市民と行政が一体となって、暮らしの中で環境保全意識を醸成し、リジェクト、リデュース・リユース・リサイクルの推進に努めます。

リジェクトは廃棄物の発生回避、リデュースは廃棄物の発生抑制、リユースは廃棄物を再使用、リサイクルは廃棄物の再資源化のことで、ごみ減量のキーワードとして環境4Rとされている。

さらに、新エネルギーの導入により地球温暖化 防止に貢献できるよう努めます。京丹後市はいのちが輝き資源が循環する自然と共生した環境循環型都市をめざします。

(3) 生きる喜びを共有できる**健やか安心都市**

支え合う福祉社会の構築・生涯現役社会の推進 <保健・医療・福祉>

少子高齢化が進む中、我が国は世界一の長寿国となりました。京丹後市においても人口の減少傾向が続くなか、高齢化率は今後もますます上昇するものと思われま

す。いつまでも健康で輝き続ける人生を送れることはすべての市民の願いです。

そのためには、市民相互の支え合いのこころを醸成していくとともに、誰もが健やかでいきがいのある暮らしが送れるよう、保健・医療・福祉サービスの充実をめざします。

また、市民が支え合う地域福祉活動への支援強化とともに、福祉社会の基盤となるユニバーサルデザイン とノーマライゼーション のまちづくりを進め、生きる喜びを共有できる健やかな安心都市をめざします。

(4) 次代を担う若い力が活躍できる**生涯学習都市**

子育て環境の充実・生きる力を育む教育の推進 <子育て・教育>

女性の生涯における出生数が年々少なくなり、わが国の人口はまもなく減少に転じることが予測される中、京丹後市の出生率は全国平均を上回ってはいますが、やはり年少人口は減少傾向にあります。

このような状況から、京丹後市では若い世代が人生や子育てに対する夢や喜びを得ることができるよう子育て環境と支援体制の充実をめざすとともに、次代を担う子どもたちがすこやかに育つよう学校教育の充実を図ります。

また、すべての世代の人々が主体的な「学び」を通じて個々の能力を発揮し、豊かな人格形成や自己表現をはたせるよう、いつでも、どこでも、だれでも学びあうことのできる学習環境の整備を進め、乳幼児期から高齢期まで、生涯にわたって市民がいきいきと成長する生涯学習都市をめざします。

加えて、日本海側屈指の史跡群や貴重な出土品を有する京丹後市では、古代からの歴史と文化を再認識するとともに、これらを地域資源として活かし発信していきます。

ユニバーサルデザイン あらゆる人に利用しやすいように最初から意図して、建築や機器、身の回りの生活空間などをデザインすること。

ノーマライゼーション 高齢者や障害者もすべて一緒に暮らす社会こそノーマル（普通）であるという福祉の考え方。

(5) 共に築き、結び合うパートナーシップ都市

共同参画・国際交流・市民主体の文化づくり

<共同参画・国際交流・市民活動・文化>

21世紀の成熟した社会において、市民の価値観が多様化する中で、魅力ある地域を築くためには、自分たちの地域のことは自分たちが決定し、実施するという自立、自助意識を高め、市民が交流し、協働してまちづくりを進める仕組みをつくり、定着させることが大切です。

また、これまでの固定的な男女の役割意識にとらわれず、男女が共にパートナーとして、お互いを尊重しながら家庭生活や社会活動に対等な立場で参画できる風土づくりをめざします。さらに、国際化・グローバル化に対応した市民主体で進める国際交流の促進と世界へ向けての情報発信を積極的に進めます。そして市民の多彩な地域活動やボランティア活動、文化活動への支援の充実に努め、市民が共に築き結び合う、市民主体のパートナーシップ都市をめざします。

(6) 災害に強く、快適で暮らしやすいうるおい安全都市

快適な暮らしと安全をささえる都市基盤 <安全な都市生活>

京丹後市は京都府の最北端にあって、道路整備が遅れており都市部との交流・交通基盤が弱い現状ですが、今後は情報化の進展とあいまって市民生活圏の広域化と地域間交流の要請はますます高まっていくものと思われます。

このため、公共交通の利便性の向上を図るとともに、広域及び地域道路ネットワークの整備を促進します。

また、ブロードバンドネットワークにより、山間部等の難視聴地域の解消をはじめ、大都市に劣らないインターネット接続環境を市内全域で可能とするなど、情報化社会に対応し快適な暮らしを支える新たな情報基盤の整備を推進します。

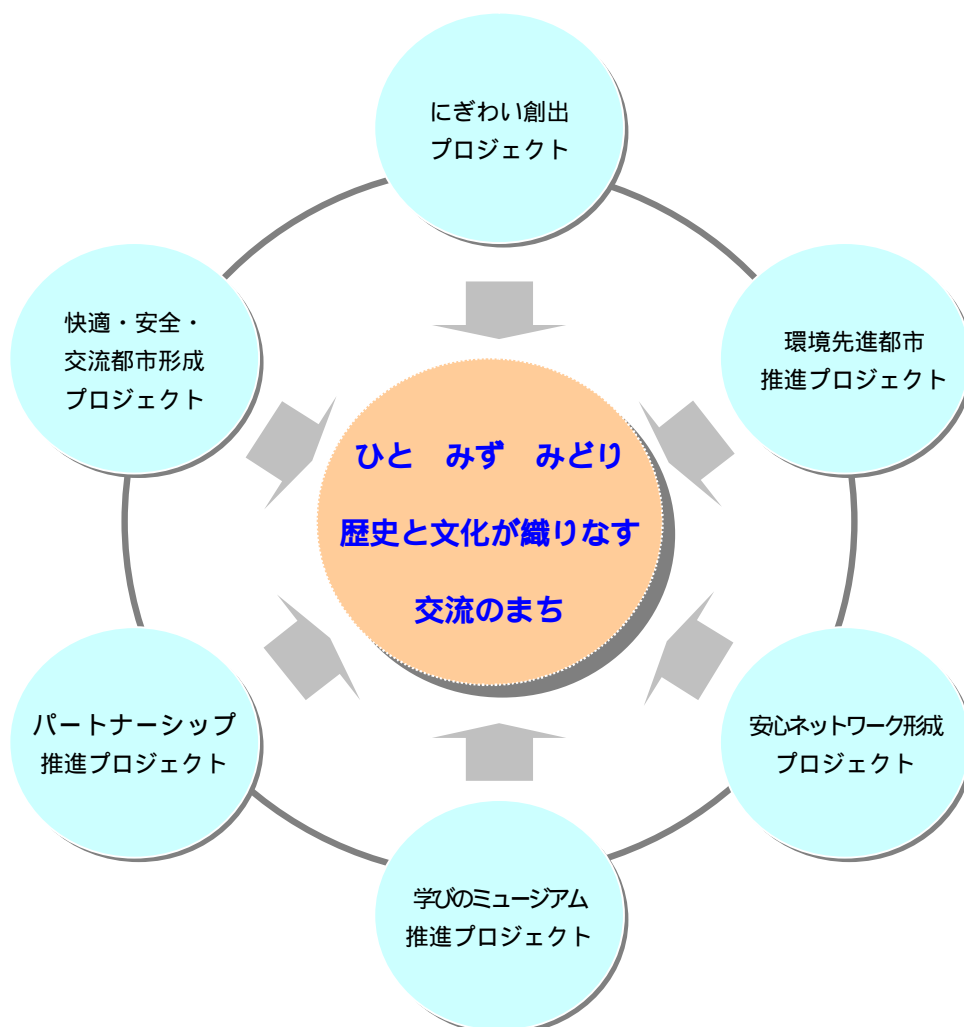
さらに、清潔で快適な暮らしの実現のために、市内全域において効率的な水洗化計画を進めるとともに、身近な公園整備や環境美化、緑化推進、京丹後らしい景観整備等を進め、市民は住みやすく訪れる人々が住んでみたいと思える、快適で魅力あるまちづくりをめざします。

一方、阪神淡路大震災の教訓を活かして、今後は、市内全域における防災体制強化に取り組み、災害に強く、快適で暮らしやすいうるおい安全都市をめざします。

パートナーシップ 協力、提携。市民と行政、企業などの間で、風通しのよい協力関係を築くための標語などに用いられる。

4 重点プロジェクト構想

10年後の将来像と第3段階におけるオンリーワンの京丹後らしさの創造へ向けて、とくに重点的に取り組むプロジェクト構想を、次のように掲げます。



(1) にぎわい創出プロジェクト構想

基本方針

農林漁業、商工業、観光業など各産業の振興と連携を進めるとともに、京丹後製品のブランド強化を図ります。

また新たな活性化の道を拓くため、企業・観光客の国際的な誘致、国際市場への販売促進などグローバルな経済交流や、モノづくり先進地としての歴史を活かした産学官の連携を推進します。

さらに、年間500万人の観光都市をめざすため、新しく環境・健康・古代文化などの視点を加え、観光交流の受け皿となるはばひろい産業資源・地域資源のネットワーク化と四季型滞在観光のための拠点整備を進めます。

また、グローバル化の時代にふさわしい国際的な視野にたった活発な交流活動を推進するコンベンションシティをめざします。

京丹後ブランドの強化と発信

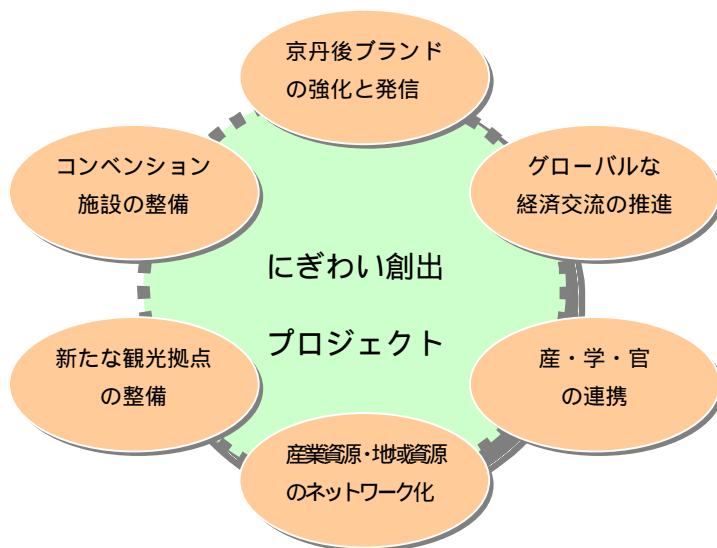
グローバルな経済交流の推進

産・学・官の連携

産業資源・地域資源のネットワーク化

新たな観光拠点の整備

コンベンション施設の整備

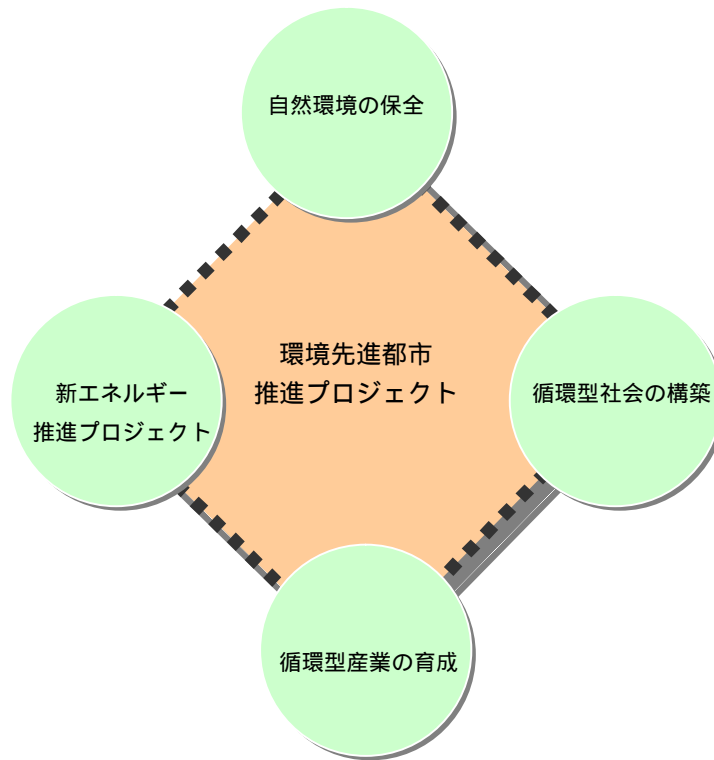
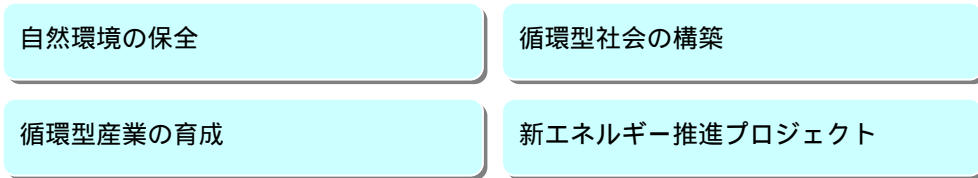


コンベンション 会議・集会。具体的には国際会議、見本市などをいうことが多い。

(2) 環境先進都市推進プロジェクト構想

基本方針

美しい海と豊かな森林に包まれた良好な自然環境を守り育てるため、市民・事業者・行政の協働によって、この自然と共生する生活環境と循環型社会を築き、日本に誇れる環境先進都市をめざします。



(3) 安心ネットワーク形成プロジェクト構想

基本方針

いつまでも健康で、誰もが安心して暮らせる環境づくりに取り組みます。

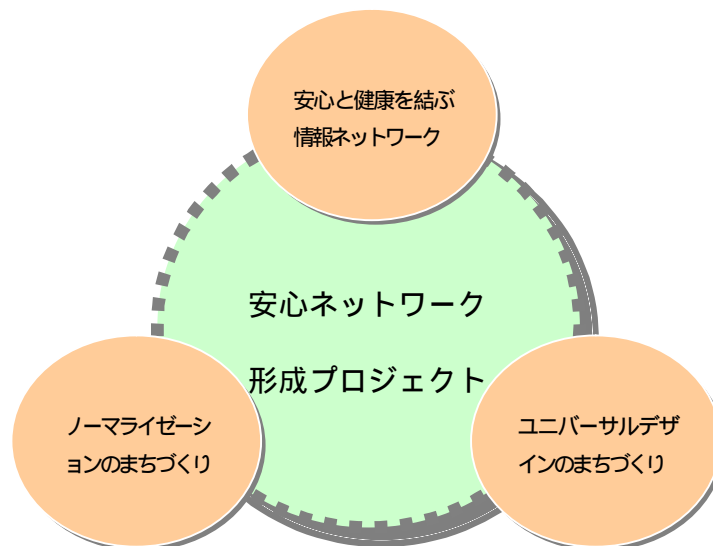
そのためには、ブロードバンドネットワークの整備にあわせ、将来的には家と施設など、保健・医療・福祉を双方向でつなぐ情報ネットワークの構築をめざします。

また、市民相互の支え合いのこころを醸成していくとともに、保健・医療・福祉サービスの充実、地域福祉活動への支援を強化し、福祉社会の基盤となるユニバーサルデザイン とノーマライゼーション のまちづくりを進め、生きる喜びを共有できる健やかな安心都市をめざします。

ノーマライゼーションのまちづくり

ユニバーサルデザインのまちづくり

安心と健康を結ぶ情報ネットワーク



(4) 学びのミュージアム推進プロジェクト構想

基本方針

市域全域を、子どもからお年寄りまでの「学び」のミュージアム と位置づけ、学校・家庭・地域が連携した子育てと生涯学習の環境を築くとともに、地域資源である丹後の歴史文化、ものづくりの伝統や技術などを学んだ上で、京丹後市の魅力を発信していきます。

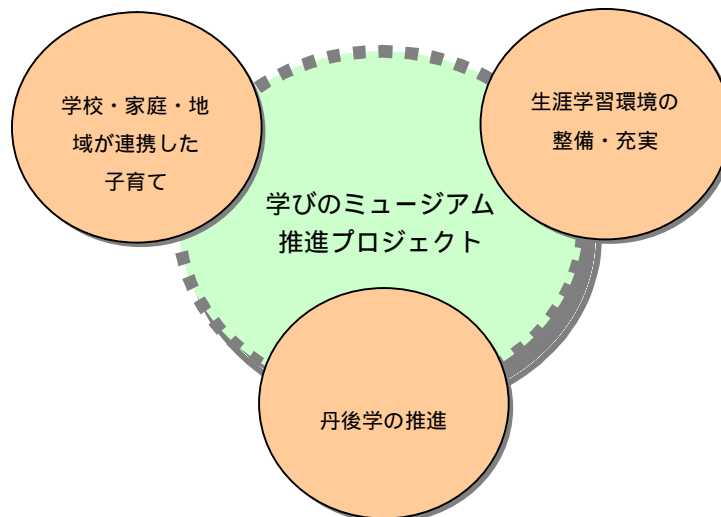
また京丹後市には、農林漁業や丹後ちりめん、機械金属工業など長年培われた技術や人材など、多彩な学習資源が地域の中に存在しています。このような地域の技術・人材を活かし、小さな時から学べる環境を整えることで、郷土を愛し、将来の京丹後市を担う人材の育成を図ります。

大陸と大和政権の交流の動脈の上にあって独自の経済文化圏を形成していたとされる丹後王国の歴史に学び、未来にわたる交流活力のまちづくりに活かす「丹後学」を推進します。

学校・家庭・地域が連携した子育てを推進します

生涯学習環境を整備・充実します

丹後学を推進します



ミュージアム 博物館。ここではまち全体が開かれた博物館のような地域づくりをいう。

丹後学 独自の経済文化圏を形成していた丹後王国の歴史に学びながら、この風土に培われた地域資源を見直し、活用することによって地域力を高める地域学。

(5) パートナーシップ推進プロジェクト構想

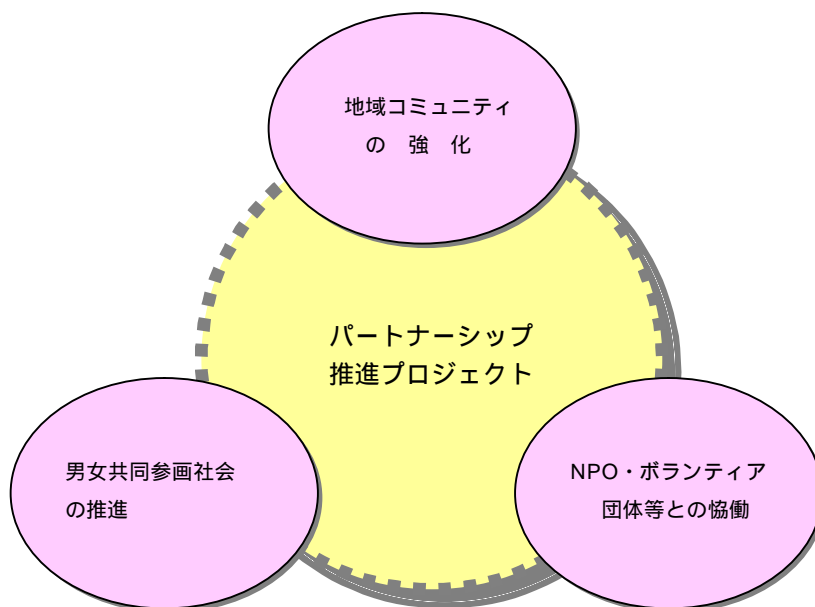
基本方針

ここに生まれて良かった、住んで良かったと感じることのできる地域づくりのためには、市民自らが「自分たちの地域は自分たちで良くしよう」という意識を持つことが大切です。また、行政は市民の取り組みを支援し連携していくことによって市民と行政の良好なパートナーシップが形成されます。さらに、男女が共にお互いの能力や役割を尊重しあいながら、喜びや感動を共有することのできる地域社会の構築が求められています。京丹後市ではこのようなパートナーシップのまちづくり体制の確立を進めます。

地域コミュニティの強化

男女共同参画社会の推進

NPO・ボランティア団体等との協働



(6) 快適・安全・交流都市形成プロジェクト構想

基本方針

道路交通網の整備を促進することによって京阪神等との時間距離を縮めるとともに、自然を活かした都市計画のもとに災害に強いまちづくりを進め、快適・安全な生活環境を築き、都会では得られないやすらぎのある都市の形成を進めます。

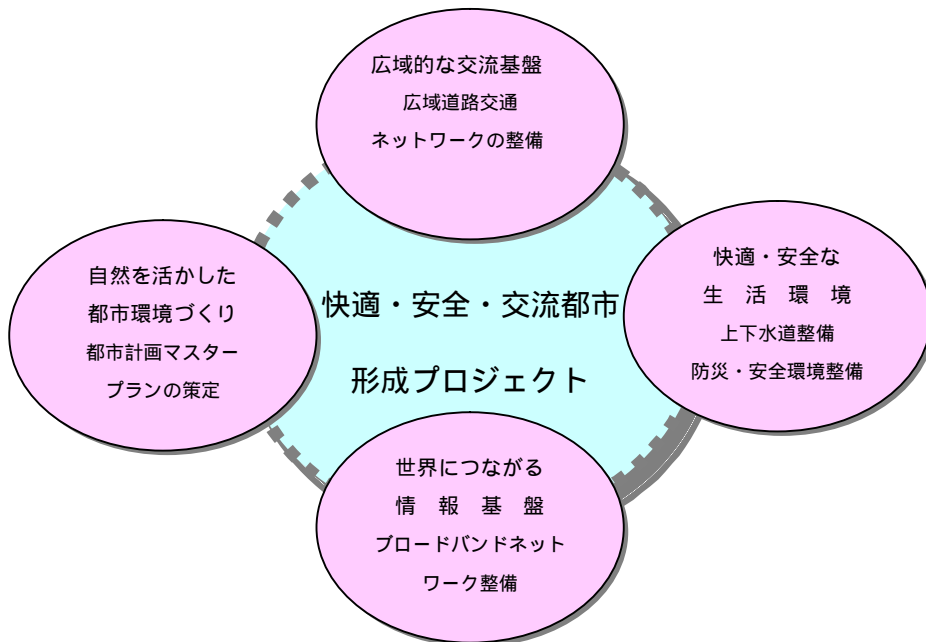
また、日本海に面した立地条件を活かした国際交流都市をめざして、近隣の空路・海路を利用するとともに、世界につながる高度情報化を推進します。

広域的な交流基盤の構築

世界につながる情報基盤の整備

快適・安全な生活基盤の形成

自然を活かした都市環境づくり



5 都市機能構想

新市建設計画の「都市構造」をふまえ、土地利用のビジョンに加えて交流都市機能の強化の方向を示します。

(1) 連携軸の考え方

広域連携軸

北近畿タンゴ鉄道や、計画中の地域高規格道路を柱に、京阪神地方や北陸地方、ひいては全国に広がる広域的な連携を強化する軸として位置付けます。

このことで、技術交流や市場拡大による産業の活性化や、交流人口の増大による観光振興等につながる、ひと・もの・情報などの多彩な交流を広域的に促進します。

地域連携軸

現在の主要幹線道路(国道 178、312、482 号等)や光ファイバー などの高速情報通信網を柱に、各地域核間及び周辺市町との連携を強化する軸として位置付けます。

この軸の強化により、各地域の施設等を共有・活用した効率的かつ効果的な生活利便性の向上など、京丹後市の均衡ある発展を図るものとします。また、各地が有する自然環境・歴史資源などのネットワーク化を推進し、市全体としての魅力の強化を図ります。さらに、京丹後市としての一体化、郷土意識の醸成につながる市民間の交流を促進するものとします。

交流都市機能

光ファイバー をはじめとした情報通信網や多様なメディアを柱に、近隣市町や京阪神はもとより、首都圏、環日本海の各地域、さらには世界の国々との交流を強化する機能として位置付けます。

これにより、京丹後市の観光や産業、文化など様々な情報発信を活発にし、産業の活性化や交流人口、定住人口の増加を促します。また、教育や健康福祉などの分野においても、先進地域などの、より専門的で高度な技術・情報の活用を促します。

(2) 地域核の考え方

広域な面積を有する本市にあっては、全域にわたって、いかに生活利便性の維持・向上に努めるかが課題となります。したがって、各地域の市街地部を中心とする地区を、その周辺の発展を先導し、地域に適したサービスを実現する地域核として位置付けます。

さらに、それぞれの地区で行われる自治活動の促進や地域の実情に応じた施策を展開するための新たな仕組みづくりに取り組みます。

また、各町は、歴史的・文化的な成り立ちがそれぞれ異なっているため、それぞれの特色を活かした個性豊かな施策を展開します。

この地域核及び連携軸上において、全域的な視点から適正な施設整備を推進することにより、市全体での市民サービス水準の向上に努めるものとします。

(3) ゾーン別整備の方向性

本市域には、魅力ある資源の分布、産業の集積が見られます。合併を契機としてそれぞれの特性をより一層発展させ、分担・連携させることで、全体での魅力を強化していくことが望まれます。したがって、特性の類似性、連続性、集積性等に配慮し、以下に示すゾーン区分を行います。

交流わくわくゾーン（観光・水産業）

海岸部の連続性、久美の浜、琴引浜、てんきてんき村をはじめとする観光、レジャー拠点、山陰海岸国立公園、若狭湾国立公園に指定された景勝、数多く点在する温泉などといった海岸沿いの資源を活かし、また、水産業の振興を図るなかで、観る・食べる・学ぶといった多様な形での海岸の魅力を強化します。

このことで、観光振興に資するもてなしの拠点、人々の健康増進につながるスポーツ、リフレッシュの空間を形成し、京丹後市内外の人々の多様な交流あふれるゾーンを形成します。

安らぎほのぼのゾーン（医療・福祉・農業）

丹後国営開発農地、砂丘畑を中心とした野菜、フルーツといった多彩な農産品を活用した農業の振興を図るとともに、滞在・体験型農業などによる交流の場づくりを進めます。

また、医療・福祉機能の強化、関連機関との連携を図るなかで、豊かな田園環境の中で心身ともに安らげるゾーンを形成します。

体験ふれあいゾーン（森林・高原）

ブナ林、野間川渓谷に代表されるありのままの自然を守り、ふれあい、体験しながら学べる自然学習拠点づくりを進めます。

また、奥山自然体験公園、山村体験交流センター、天女の里などの山村体験型施設や、スイス村、碓高原などの交流拠点施設を活用し、京丹後市内外の人々が森林・高原の自然を体験し、また、健康的な活動を行えるゾーンを形成します。

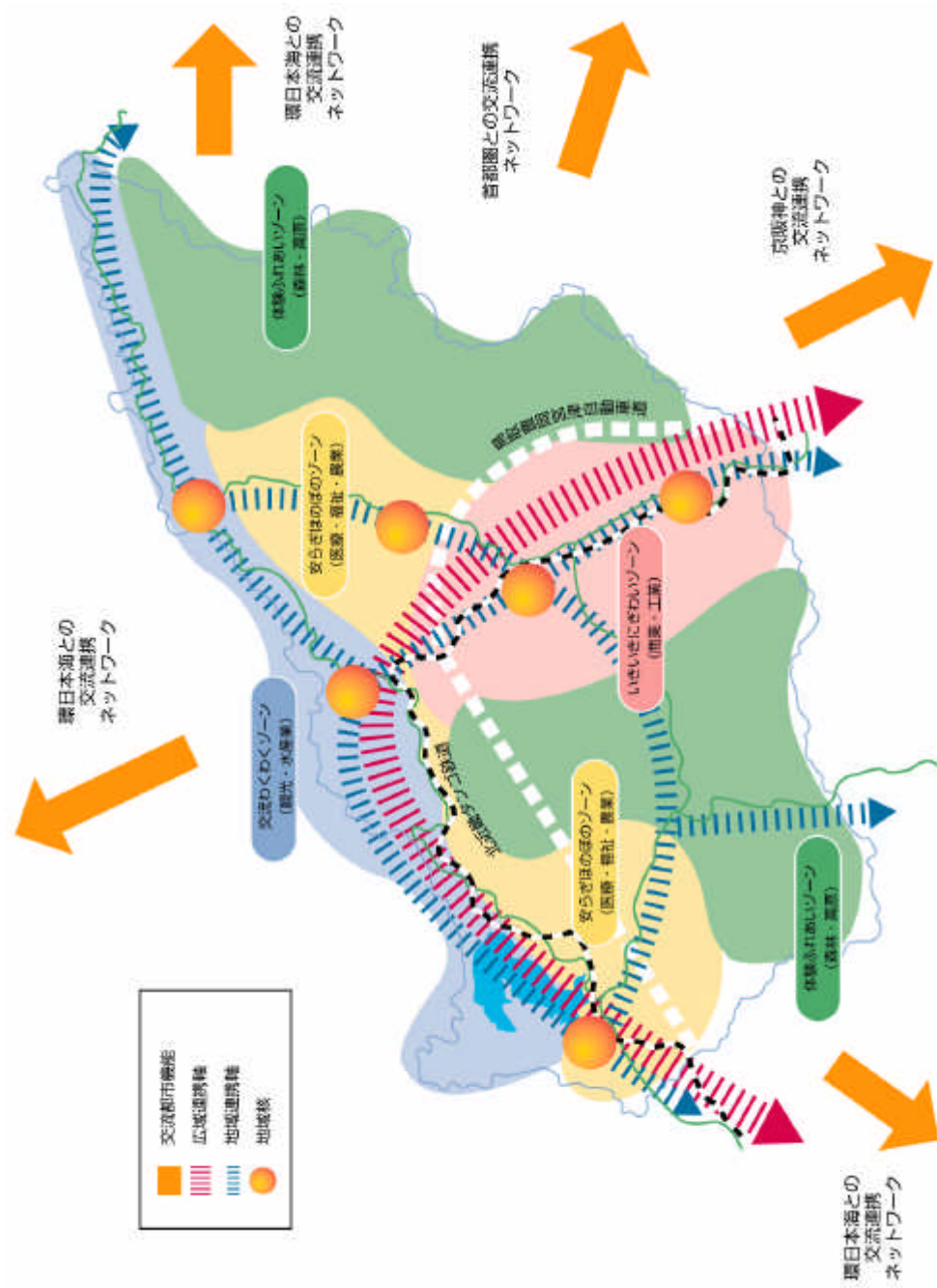
いきいき賑わいゾーン（商業・工業）

既存の工業の高度化を図るとともに、京都府織物・機械金属振興センター等と連携するなか、新たな産業創造を含めた工業振興の拠点づくりを進めます。

また、既存の商業集積の高度化、活性化を図るとともに、駅前の整備等を進めるなど、京阪神地域等からの玄関口としてふさわしい機能を充実させます。

このことで、市民がいきいきと働き、京丹後市内外の人々が賑わいあふれるゾーンを形成します。

光ファイバー 光の信号を送るための透明度の高いガラス繊維。1本で多量の情報を遠方へ送ることができる。



6 構想の実現に向けて

基本構想を着実に実現するため、自分たちでできることは自分たちです、地域でできることは地域で行う、行政でなければできないことは行政で実施するという考え方のもとに、協働と市民参加のまちづくりを進めるとともに、民間の経営手法をも取り入れながらスリムで効率的・効果的な行財政を推進します。

協働のまちづくりの推進

市民、地域、企業と行政が連携しながら協働でまちづくりを進めるとともに、市民自治を担う人材や組織の育成を図ります。

市民と進める地域経営

市民とともに地域力、安心力、活性力を高める地域経営を進めるため、情報公開の推進を基本として、公共サービスやまちづくりへの市民参加を推進します。

経営手法を取り入れた効率的な行財政運営

行財政においては、公共性や必要性のほか、有効性・効率性などの観点からも改善を加えるとともに、組織機構としての政策形成能力の向上を図るなど、スリムで効率的な行財政運営を進めます。

